2022/2/15

令和3年度

葛城市立磐城小学校　学校評価

一生懸命を最後まで （磐城小　学びのなかま）

目標　①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子
②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子
③人を思いやり、自分も人も共に大切にし、感謝する心を持ち、親孝行する子
④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施 （ A←90%以上　B←70%以上90%未満　C←70%未満 ）

目標	評価項目（★・・・指導の重点）		対応する質問項目	対象	肯定的評価（4+3） R2	R3	変化	自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
① なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子	基礎・基本の学力向上 [研究・学習]	聴く指導の充実を図る。★【聴く】	聴く指導を徹底することができた。	教	80%	84%	↗3.2%	B	B	【研究】○各学年での「聴く」指導の意識が徐々に高まっていることが結果として出ていると考えられる。○部会で共有したことが各学年に少しずつ広がっている。【学習】◇教員は学習内容を定着させる意識をもって授業を行っているが、家庭に帰ってからやまとめの時期まで学んだことを覚えられていないため、子どもたちが理解し活用できる学びや授業を行えてはいないと言える。	【研究】○各学年での進捗状況をデータに入力する。○引き続き部会での意見交流を行う。【学習】◇毎回の学年会で、教材研究を行いよりわかりやすい授業を目指して授業のスキルアップを図る。◇前年度の学力テスト結果を考察し、子どもたちが苦手と感じているものを見つけ、意識して指導する。
		学習内容の定着を目指す。	基礎基本の学力定着に向けて指導を充実させることができた。	教	95%	95%	→0.2%	B			
			日々の教育活動で学習内容が定着できるような取組が行われている。	保	91%	84%	↓-7.1%				
	学習意欲の向上 [研究・学習]	児童が話をよく聴き、意欲的に学ぼうとする態度を育てる。	児童が互いの話を聞き合い、意欲的に学ぼうとする態度を育てた。	教	85%	81%	↘-4.0%	B	B	【研究】○聴くことは意識していても、そこから、互いの話を聴き合って、意欲的に取り組む指導までは十分取り組めなかったと考える。○児童は「聴く」活動を意識的に行っているため、肯定的にとらえているが、十分とは言い難い。【学習】◇昨年度の反省より、学年間で家庭学習について共通理解をしたり、教員が児童の実態に応じて家庭学習の出し方や家庭への働きかけなど工夫したりした成果もあり、児童の家庭学習に対する意識が向上していると言える。◇家庭でも家庭学習について声掛けや手助けをしていただけていると言える。一方で、自ら取り組めていない児童もまだまだいる。家庭で自ら学習できるように内容について丁寧に説明をしたり自主学習の練習をしたりするなど、取り組ませる意欲付けが必要と言える。	【研究】○授業公開を通して、授業を見る機会をもち、児童が意欲的に取り組める授業づくりのアイデアをふやす。○目指す児童像にどれだけ近づけたかの指標となるふりかえりシートを書かせる。【学習】◇家庭学習について年度初めの部会、また学年会で分量や内容について確認する。◇家庭学習の手引きを各学期初めに子どもたちに向けて説明をする。また、保護者に向けても4．5月の通信の裏面に掲載し啓発を促す。◇自主学習については、3年生の1学期（連休前後）からスタートする。その分量については4月中に学習指導部で決定する。机に座り、ノートを開く習慣付けをしていく。◇学習活動や家庭学習の充実のために、問題集を追加購入する。
			先生の話や友だちの意見を聞き、授業に意欲的に参加していますか。	児	90%	91%	→0.9%				
			意欲的に学習に取り組んでいる。	保	77%	×					
		家庭学習（宿題を含む）に取り組む児童を育てる。	児童の実態に合わせて家庭学習（宿題を含む）の内容や出し方を工夫することができた。	教	85%	90%	↑5.6%	B			
			毎日、家庭学習（宿題を含む）をしていますか。	児	93%	95%	→1.9%				
			毎日、自分から家庭学習（宿題を含む）をしている。	保	78%	82%	↗3.9%				
	思考力・判断力・表現力の育成 [特活]	互いに認め合える集団を実現する。	児童が意見を伝えられるように取り組んだ。	教	92%	90%	→-1.4%	B	B	○研究教科として2年間「特別活動」に取り組み，学級会の経験を全学級で重ねてきたことで，話合いのスキルが上がってきている。一人一人の意見を最後まで聞こうとする態度が身につき，互いに認め合う集団が構築されてきた。○研究部から提案された聴き方「あいうえお」の効果が出てきている。一方で，聞いてはいるが，友達の意見や話合いの内容を理解できていない児童もいる。	○学級会を続けていく。研究教科が変わっても，学級会を続け，スキルを維持していく。磐城小全体として，学年の縦の積み上げができるようにする。○「振り返りタイム」をつくる。コロナ禍で，小グループでの話合いができない状態が続いている。意見を伝えることが苦手な子が，なかなか成長できにくい現状である。学級会では発表できなくても，「学級会での振り返り」で，個々の考えをロイロノートで共有し、「意見を伝え,それを理解すること」への個々のスモールステップへと導く。
			互いに認め合う集団を育成できた。	教	88%	86%	→-1.8%				
			友だちの意見を最後まで聞き、自分の意見を伝えることができましたか。	児	83%	86%	↗2.7%				
			一人一人の意見を大切にできる学級ですか。	児	93%	92%	→-1.0%				
	読書力の向上 [学習]	学校や家庭での読書習慣の定着を目指す。	読書の時間を確保し、児童に読書に親しませるようにしてきた。	教	93%	81%	↓-12.0%	B	B	○図書の時間、朝読書（週2回）や給食後の時間など読書するように声掛けしていたが、読書の時間の確保が難しかった。○学年によって指導の温度差があり、読書カードを有効に活用することができなかった。○各家庭で、読書に親しむ時間をつくり出すように声をかけたが限界があるように思うので現状維持を目標にしてはと思う。	○図書の時間、朝読書や給食後の時間、課題の後の隙間に読書するように声掛けをする。教室に担任が数冊図書室の本を借りて本に親しみやすい環境にする。○読書カードは、ファイル式のものにするなど利用しやすく、読書記録が6年間蓄積され様子がわかるようなファイルづくりにしていく。○100冊の本を読むと賞状を渡すなど読書の意欲につながるように取り組みを続ける。
			図書だよりや読書カードを活用できた。	教	77%	71%	↓-6.2%				
			毎日、学校や家で読書をしていますか。	児	80%	79%	→-1.3%				
			毎日、家庭で読書をしている。	保	53%	54%	→1.0%				

2022/2/15

令和3年度　　**葛城市立磐城小学校**　　**学校評価**

一生懸命を最後まで （磐城小　学びのなかま）

目標　①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子
②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子
③人を思いやり、自分も人も共に大切にし、感謝する心を持ち、親孝行する子
④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施 （ A←90%以上　B←70%以上90%未満　C←70%未満 ）

目標	評価項目（★・・・指導の重点）		対応する質問項目	対象	肯定的評価（4+3） R2	R3	変化	自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
② 目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子	運動好きな子の育成 ［保体］	楽しみながら体力をつけることができる授業の工夫を行う。	児童が楽しみながら体力をつける工夫をすることができた。	教	80%	85%	↑5.4%	B	B	○今年度は体力向上支援員による授業支援が行われた。授業について様々なアイデアを実際に授業の中で示してもらえた結果、教師の指導改善につながったのではないか。 ○運動参観では、2年ぶりに表現運動を取り入れた。少ない練習期間ではあったが、当日に向けて学年で取り組んだことがその後の授業の中でも生かされたのではないか。	○サーキット運動は次年度も継続し、楽しみながら様々な動きを習得できるように指導する。 ○2ヶ月に1回程度、体育部内で研修の機会をもち、授業についてのアイデアや手立てを共有し、教師の「引き出し」を増やす。 ○めあてや目標を示し、子どもたちに対して、何に取り組むのかを意識させる。
			体育の時間は積極的に運動していますか。	児	94%	95%	→0.3%				
		生涯スポーツの基礎となる運動に親しむ態度を養う。	体育的な取組を通して、ねばり強くやり通す心と体を育むことができた。	教	68%	78%	↑10.5%	B			
	健康・安全・食育の意識向上 ［保体・生指］	正しい姿勢や基本的な生活習慣を意識し、自分自身の健康についての関心を高める。	姿勢や生活習慣に関する指導を通して、自らの身体を守り鍛える態度を養うことができた。	教	69%	79%	↑9.9%	B	B	【保体】 ○今年度から、月に1回、『保健指導の日』を設けた。何について指導するのかを明確に示したことが教師の結果改善につながったのではないか。しかし、その日限りの指導で終わってしまい、教師も子どもも年間を通して継続できていないようにも感じる。 【生指】 ◇年間を通した取り組みとして、右側歩行の取り組みを行ったことで、子どもたちの「右側を歩く」という認識が染みついてきたように思う。その一方で、教員の意識が下がっていることが気になる。日々の子どもたちの高まりに自信が持てなかったり、意識の低さにもつながっていたりすると考えられる。どの学年でも共通した取組を行い、学校全体で指導していくようにしなければならない。	【保体】 ○次年度は、年間を通して姿勢に関する指導をしていく。『保健指導の日』を『姿勢の日』とし、姿勢に関する放送をするなど啓発活動をしていく。 ○季節に関した保健指導については、『ほけんだより』を配布したり、二測定（体重測定）の機会を利用して授業を行ったりする。 【生指】 ◇児童だけでなく、教員も同じように自覚を持ってもらうために、休み時間の立哨を取り入れていく。 ◇雨の日の過ごし方について、年度当初に各学級で、どのように過ごすのかを話し合いで決めておく。
			「ピン・ピタ・グー」や「早寝早起き朝ごはん」はできていますか。	児		79%					
		学校だけでなく地域においても安全に過ごそうとする児童を育てる。 ★【右側通行の徹底】	どんな時でも安全に過ごそうとする児童を育成することができた。	教	88%	77%	↓-10.8%	B			
			自分や周りの人たちがけがをしないように、「教室では静かにすごす」「ろうかは右側を歩く」など安全に気を付けて生活していますか。	児	86%	90%	↗3.7%				
			交通ルールを守り安全に気をつけている。	保	95%	95%	→-0.1%				
	外遊びへの意欲向上 ［保体］	体育の授業の初めに行ういわきサーキットや休み時間に行ういわ金ピックなどを通して、運動への意欲や体力向上を目指す。	休み時間、教室に残っている児童はほとんどいない。	教	45%	61%	↑16.0%	C	B	○休み時間、子どもたちと一緒に遊んでいる教師の姿が増えた。教師の意識が向上したことが改善につながったのではないか。 ○依然として授業と感染症対策との兼ね合いがあり、子ども同士の補助やグループ活動等が制限されていることが低下の原因の一つではないか。	○週に1回は学級遊びを計画・実施し、教師も子どもたちと一緒に外遊びに取り組む。 ○学期に1回、運動委員会による外遊びイベントを開催し、外遊びの楽しさや様々な動きのやり方を知ってもらう機会を設ける。
			休み時間は外へ出て遊んでいますか。	児	69%	72%	↗2.4%				
		子どもたち同士で動き方を覚え、自ら学ぶ態度を育てる。	子どもたち同士で動きを学び合う態度を育てた。	教	83%	73%	↓-9.3%	B			
			授業中や遊んでいるとき、運動のやり方を友だちに教えてあげたり、教えてもらったりしたことがありますか。	児	70%	80%	↑9.3%				

2022/2/15

令和3年度

葛城市立磐城小学校　学校評価

一生懸命を最後まで （磐城小　学びのなかま）

目標　①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子
②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子
③人を思いやり、自分も人も共に大切にし、感謝する心を持ち、親孝行する子
④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施 （ A←90%以上　B←70%以上90%未満　C←70%未満 ）

目標	評価項目（★･･･指導の重点）		対応する質問項目	対象	肯定的評価（4+3） R2	R3	変化	自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
③ 人を思いやり、自分も人も共に大切にし、感謝する心を持ち、親孝行する子	進んで挨拶をする子の育成 [生指]	進んであいさつをし合う人間関係を大切にした学級づくりを目指す。	進んであいさつをし合うような人間関係を大切にした学級をつくることができた。	教	93%	81%	−12.0%	B	B	○コロナ時期ということもあって、挨拶に対して教員が気を遣ってしまっていたり、日々指導しているものの、自分自身に厳しく評価していたりすることが結果として表れていると考える。年々、あいさつについては意識が低くなっており、学校全体で見てもあいさつの声のさみしさが感じられる。	○挨拶をなぜするのか、挨拶をすることでどんな良い効果があるのかを児童の発達段階に応じて具体的に示す指導を行う。また、教師・保護者主導ではなく、児童が活動の中心となるような挨拶意識向上の取組や楽しいイベントを実施する。
		家庭や地域でもあいさつができる児童を育てる。	家の人や地域の人に元気よくあいさつをしていますか。	児	85%	84%	−1.1%	B			
			すすんであいさつをしている。	保	75%	65%	−9.5%				
	掃除をきちんとする子の育成 [生指]	清掃によって美しい学校環境を保持し、身の回りを清潔に整頓することができるような習慣を育成する。	教職員自ら掃除に取り組みながら、担当場所の指導を行うことができた。	教	95%	91%	−4.0%	B	B	○昨年度から、コロナの影響もあり掃除の時間や場所が制限されている中で、子どもたちは一生懸命掃除をしている姿が多く見られる。ただ今後も、感染対策を徹底しながら掃除の仕方を検討していく必要があると考える。	○無言清掃の徹底について教師と児童でもう一度課題を共有して次年度も進めていく。 ○清掃前に1分間のクールダウンタイムをとるなど、休み時間からの切り替えができるようにしていく。
			掃除の時間、余計な話をしないで掃除をしていますか。	児	79%	82%	3.0%				
			学校は清潔で整っている。	保	90%	78%	−11.3%				
		清掃活動を通して、勤労の価値や必要性を体得するとともに、進んで奉仕をしようとする態度を育てる。	進んで奉仕をしようとする態度を育てた。	教	92%	90%	−1.9%	A			
	きまりを守る子の育成 [生指]	年間目標を意識して守ろうとするなど、規律ある生活ができる児童を育てる。	年間の「生活目標」を意識した指導ができた。	教		65%		B	B	○本年度は月目標から年間目標に変更したが、児童はキャッチフレーズとして決めたこともあり、意識できている姿が見られるが、教員が年間目標が何かわかっておらず、指導が統一できていなかったことが考えられる。	○年間目標が何なのか、教師にも児童にもはっきりとわかるような掲示物を作る。 ○毎月の部会や学年会でも、各学年の状況を情報交換し、共通した指導ができるようにしていく。
			年間目標を意識して行動していますか。	児		84%					
		基本的な生活習慣の育成を図り、社会のきまりを守ろうとする態度を育てる。	基本的な生活習慣の育成を図り、社会のきまりを守ろうとする態度を育てた。	教	89%	86%	−3.5%	B			
			いつもルールやきまりを守っていますか。	児	89%	92%	2.7%				
	人権意識・道徳性の育成 [人教・特支]	自分も他者も大切にする集団を育てる。	積極的に人権学習を進め、児童の人権意識を高めることができた。	教	84%	79%	−5.6%	B	B	【人教】 ○子どもたちに思いやりの心を育むため様々な人権学習を進めてきたが、継続的に実践していく力が不足している。人権学習は学校全体の活動につながることを改めて意識したい。また、子どもたち同士をつなぐコミュニケーション力（相手の立場を考える力）を育て、なかまづくりを進める必要がある。 ○感謝の言葉は各学年発達段階に応じて取り組み、徐々に学校に広がってきている。さらに様々な場面で、言葉だけではなく感謝の気持ちをもつ取組を深めたい。 【特支】 ◇教科の時間確保を優先し、授業としての人権学習を進めることが難しかったかもしれないが、日々の言動や取組でも人権意識を高められる機会は多くある。その機会に気付き、生かすことができていない場合があるのではないか。 ◇保護者の結果の10%減は、不安の高まりだと捉える必要がある。教師の思いや取組が児童にすら伝わっていない場合や、例えば友人間のトラブルの対応などで不安を抱えているのではないか。	【人教】 ○教科指導・生活指導・学級経営など学校生活全体を通じて、人権尊重の意識と実践力を養う取組をする。 ○4月、学校全体・各学年の人権教育推進目標を定め、その目標を「いわきのなかま」として発行し保護者に啓発する。また、「思いやり」について保護者と共に考える機会を持つ。（授業・懇談等） ○月に1回、人権教育部会を開き、学年の取組等を交流する。 ○「感謝」の取組は継続し、言葉だけではなく様々な人に支えられている自分に気づき、感謝の心を育てる。 【特支】 ◇特別支援教育部から何か発信がある場合には、必ず振り返りを行い、学級間の対応の差の解消に努める。例えば、それぞれの学級でどのような言葉で伝え、どのような反応だったのかを振り返り、教師側の意識や対応に差がないか確認する。 ◇右側歩行や時間を守るなどの学校のルールを指導する際も、他者に対する思いやりの心を育てる機会として指導する。また、友人間のトラブル対応では「ごめん」と言えることが解決ではなく、反省し、相手の気持ちを考えようとすることが思いやりの一歩であると自覚しながら話合いを進め、保護者とも支援の方向性を合わせ、理解につなげる。
			学校は子どもに思いやりの心を育もうとしている。	保	96%	85%	−10.9%				
		豊かな感性を育み、互いに励まし合い共に育つ人間関係をつくる。 ★【感謝】	他人を思いやり、助け合う気持ちや感謝の気持ちを育んでいる。	教	92%	95%	2.9%	A			
			友達が困っていたら声をかけるなど友達のことを考えて行動していますか。	児	92%	93%	0.9%				

2022/2/15

令和3年度　　**葛城市立磐城小学校**　　**学校評価**

一生懸命を最後まで （磐城小　学びのなかま）

目標　①なかまと共に学び、確かな学力を身に付ける子
②目標を掲げ、最後までねばり強くがんばり続ける子
③人を思いやり、自分も人も共に大切にし、感謝する心を持ち、親孝行する子
④子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生

アンケートは4段階評価で実施 （ A←90%以上　B←70%以上90%未満　C←70%未満 ）

目標	評価項目（★･･･指導の重点）		対応する質問項目	対象	肯定的評価（4+3） R2	R3	変化	自己評価	総合評価	分析	今後の改善方策
④ 子どもの力を信じ、ねばり強く指導・支援をし続ける先生	職務意識の向上 [教務]	時間厳守など服務規律を徹底する。	時間厳守など職務に係わる義務を意識して行動することができた。	教	95%	94%	⇨-1.4%	A	A	○概ね高い数字とも言えるが、教員として服務を順守し、高い自覚をもつことは当たり前であり、１００％でなければならない。 ○昨年度の本校における児童・保護者・地域からの信頼を失う事象に関しても個人のわずかな気の緩みや自覚の無さに起因するものと考えられる。コロナ下での児童の健康管理を含めた仕事量の増加など、教員が置かれている現在の労働環境は厳しい。しかし、児童・保護者・地域の方々から信頼を得るためには、教員としての高い自覚とプロ意識をもって行動することが求められている。	○教員としての自覚はもちろんであるが、知識や授業力も含めた人間力を高めるような研究・研修・様々な経験を積み重ねる必要がある。 ○自分本位の行動・指導にならないように、管理職や各主任へ報告・連絡・相談を徹底する。 ○働き方改革を推し進め、各教員が十分な休養を確保でき、心身共に充実した状態で勤務できる労働環境を構築する努力が求められる。
		教員としてのプロ意識を常にもって行動する。	いかなる時も教員としての自覚をもって行動することができた。	教	97%	98%	⇨0.3%	A			
	組織力の強化 [教務]	学年間の共通理解を図り、連携をとる。	様々な課題について、学年間の共通理解を図り、連携を取りながら進めることができた。	教	89%	91%	⇨1.7%	A	B	○各学年100名以上の児童数を抱える本校では、学年間の連携・協力は不可欠である。現状の数字に満足することなく、各学年間の関係がより一層強固になるよう、様々な事象に関して共通理解の徹底を図る必要がある。 ○各分掌には、勤務体系や教員経験年数など立場が違う教員が集っている。それぞれが高い自覚を持ち、それぞれの思いや意見が有効に反映されるような各分掌となっていく必要がある。	○各教員は、学級運営業務を中心とした様々な仕事を抱えている。学年会や各会議をより能率よく有効に運営していける工夫が必要である。また、各学年・各分掌における風通しのよい人間関係の構築が求められる。 ○各リーダーが明確な目標を定め、その目標に沿った推進計画を作成し、適宜適切な評価を行う。また、各分掌における報告・連絡・相談への意識も高めたい。
		各学年や各分掌の取組を全職員で共有する。	各学年や各分掌の取組を全職員で共有することができた。	教	90%	84%	⇩-5.3%	B			
	地域との連携推進 [教務]	対人業務であることの自覚を高める。	対人業務であることの自覚をもって行動することができた。	教	97%	94%	↘-3.9%	B	B	○今年度も家庭訪問や授業参観・懇談会などの行事が中止となり、保護者と接する機会が失われた。その中で電話連絡を中心として可能な手段で家庭と連携をとってきた。しかし、2年にわたるコロナ禍での学校教育活動に、少しづつ保護者も不満や不安を積み重ねているように感じられる。 ○例年に比べると限られた機会ではあるが、野外活動での稲刈り、花壇への球根植え、運動参観などで保護者やコーディネーターを中心とした地域の方々の協力を得ることができた。	○学校全体で共通理解を図りながら、後手を踏むことのないようにきめ細やかな保護者対応を続けていく必要がある。また、各教員によって対応が違うなどの不備がないように、全職員が温度差なく一定の対応をできるよう一致団結する。 ○今までに本校が獲得した人脈や経験を今後も継続できるよう各担当の引継ぎを的確に行う。また、各教員が学校・地域パートナーシップ事業に積極的に関わっていくことが必要となる。
			学校は家庭との連携を適切に行っている。	保	94%	85%	⇩-8.8%				
		コミュニティ部の活動を取り入れ、保護者や地域人材と協働する。	保護者や地域の方々と協働することができた。	教	90%	89%	⇨-0.6%	B			
	感染防止対策と学びの保障 [教務]	新型コロナウイルス感染防止対策を施し、限られた環境の中で工夫して指導する。	児童の安心安全を念頭に、感染防止対策を徹底しながら、児童生徒に必要な学習を工夫し、実施することができた。	教		96%		A	A	○概ね高い結果となっているが、今後もコロナ禍の状況が続くことが予想される。児童の生命と学力保障に関わる課題であることを自覚し、慎重に対応していく必要がある。	○教員の意識とは裏腹に、本来なら必要な学習活動が十分に実施されていないことは間違いない。できないことに慣れるのではなく、ガイドラインを遵守した上で代替案・折衷案、ICTを有効活用した新たな指導方法を追求していく必要がある。